史料紹介

賀来飛霞より山路屋への書翰（一）

西岡　昭

平成七年の佐田小学校文化祭に賀来飛霞先生の書翰が展示されていた。所有者賀来和子さんの御主人惟康氏が生前に「飛霞先生の書翰だけは大切に」とのお考えで巻物に仕立てられた由。小中大の三巻あり、小巻六通、中巻十五通、大巻二十一通で、惟熊・熊次郎宛が各一通の外は、惟弘とおとふ（桃）宛四十通の計四十二通である。すべて東京から佐田山路屋へ出されたものである。

巻物にされた書翰は表装が年代順ではなかったので、全部解読し終えてその内容から年代順に並べかえた。『郷土の先覚シリーズ第八集賀来飛霞』では小石川植物園赴任が明治十一年十一月とされているが、これでは一通目から五通目迄の年代があわない。『大神姓系譜下篇』飛霞の項に「同（明治）十年六十二才にして東京大学小石川植物園取調掛となり上京」とあることからして、一通目は明治十年十月十九日と判断した。以下月日上部の（　）内は年を表す。なお資料紹介にあたって御子孫賀来睦三郎氏（福岡県宗像市在住）の御了承を頂いた。

（一）

梅霖未晴候処　益御安泰可被成御座珍重奉拝賀候　随而小生今以因循にて逗留罷在候条乍憚御安意思召し可被下候　然ば其後は開拓使植物園と山下博物館等へは参候へとも未々向嶌ノ辺迄も出掛不申候　何れに参候にも多少雑費掛候間　腹之減らぬ様只凡に掛り郷を懐ひ社鵑を聞帰情を催のミに御座候　貴君御舟ノ順之宜敷速に御帰着を羨むのミに御座候　此間招魂社祭礼正則にて賑々敷数日賑ひに御座候　先は御機嫌伺迄草々頓首

（十）七月二日

尚々時候折角御自重御家政御勉強可被成候

熊次郎様にも至極御壮健に御座候

一　地震と火事ハ折々不絶大閉口に御座候

当地者今が盆にて御座候　総て古をは用ぬ様に御座候
東京は唯々廣キ繁華に御座候へども銭無しは徒然に御座候
也
一　農学ノ大学校と申参り候心得に候へとも今に参り出し
不申候　暑気に迷惑仕候
一田中悪害蔓延ノ由　新聞上にも御承知とは存候へども是
は支那ノ飢饉ノ様も此虫と申事に御座候　中国辺迄に及候
よし何卒九州地方へ出来ねハよろしと奉祈候

賀来勝太郎様　　賀来飛霞
　　几下

略緘御免可被下候

(二)

時分からおあつく相なりまし候ところ皆々様御そろひ御き
けんよく御しのきあそはし候よし　御目出度そんし上候べく
候　次に私事今以てとふりういたしよろしきつれも御座なく
ミな〳〵とゝめ候にまかせ長とふりうに相なり申候　しか
したつしやに御座候まゝはばかりなから御安しん可被下候
扨て道中せんちゆう勝太郎様の御せわかす〳〵相なり御かけ
を以てまいりつきありかたき事かきりなくそんし上まいらせ
候　勝太郎様の御ともいたさずこれのミふほんい　たゞいま
にてハよろしきつれも御座なく日々ふるさとの事のミ思ひ出
し申候　さみたれのふるにつけてもふるさとのふるきのきば
ぞしのばれにけると申出候　御ワらひ可被下候　扨てせんたっ
てはいつれよりも御たより御座なくとりわけ心ぼそく御座候
ところ　お千代へ御ふみにて御ていねいに御ことづけの御は
しかぎのよし　おちよゟうけたまわりまこと〳〵にありかた
くうれしくそんし上候べく候　○熊次郎様にもおり〳〵は御
目にかゝりいろ〳〵御はなしをもうけたまはり申し候　いたっ
て御たっしゃにてかくもん御べんきょふに御座候まゝ御気遣
あそばされましく候　おり〳〵には私のおり候ところへ御出
にも相なり申候　○ふくしまけんにても一郎平様おしづ様し
こくに御たつしやの御たよりうけたまはり申候　一郎平様は
御ひよふばんもよろしくうれしくそんし上候べく候　こゝも
とハほかに出候へはいろ〳〵おもしろき事のみに御座候へと
も　なにふん銭なしゆへちっともおもしろき事は御座なくたゞ

心ぼそき事に御座候　此あいたハ招魂社の御まつりにて日々にぎやかの事にて御座候　新聞紙をさし上申候　何もかもまつ新聞紙の通りにて御座候へとも中〻しんふんくらいては御座なく候　惟熊様惟弘様へもくれ〳〵よろしく御申上可被下候　扨て宿もとの事ハ何ふんよろしく御たのミ申上候　何も御ゑんりよなくおよきおいくへ御申きかせ可被下候　先は時候御見まひ申上度あら〳〵目出度かしく

（十）七月十二日　　賀来飛霞

賀来おとふ様

まひる人々申給へ

かへす〳〵時候折角御用心あそ者さるへく候　およ祢様おか祢様おやす様おさん様へよろしく御伝へ可被下候

（三）

朝夕者寒冷相催候処御渾御揃益御安泰奉恭賀候　二に私依旧罷在候乍憚御安意思召可被下候　木下文太郎へ御托し之御書昨日相達し難有拝見仕候　当地者気候不順に而近来者雨勝に而御座候　今日も雨降に御座候　此間まて伝通院之下なと稲も刈り不申候位に御座候雨故ニテハナシ　御地も伊勢御分霊御通行妻垣御一泊之由天気晴朗に而賑候御事と奉遙察候又御地御祭礼には芝居も至極当テ候よし

私ハ未に当地之芝居も見物不仕候　只々今金少に而辛抱はかり近日ハ牛肉も喰ひ不申候　御近郷稲虫之害も有之候処御地幸に其害も無御座由大慶奉存候　扨而於当地熊次郎様にも折々ハ御出被下候而色々御話も仕候　御壮健に而御勉強に御座候　昨夕も御出被下候何も無御遠慮申上候　□様十月末に者御帰郷と御沙汰に御座□今以御登り無御座候最早近々と奉存候　私も近々帰国の程に御座候　寒ク不成前にと心組に罷有候　今になりてハ金もなく同伴も無御座候へともとふか仕候而と存□候

御祖父様にも益御荘剛に而被為入候由珍重之御事に奉存候

五郎事も飛松西法寺世話にて彼地へ開業のよし貴論之如ク長久を祈申候

私宿元之義具々宣敷御頼申上候　御母公様へも御心をそへさせ仕候間何も御協定なく御指図被下様に御頼申上候　愈貴家も御新築之思召之由扨も御大壮の事と奉存候　篤と御工夫御凝らし驕には長せさる様体裁も大低之処に可被遊様と奉存

候当時体裁なとを申候と何れ驕に流るゝ方に御座候　頭成へ之新道愈大当に相成候よし就而ハ尊祖父様取締りを御拝命之由　上の原牧牛成就に相成候ハハウマイ肉御喰へ申候事も出来候欤いつれ酒ハ入候事に而幾度欤御爲と奉存候　田原氏も最早全快同様に相成日夜大勉強に御座候　緒方并ニ粲次郎も宜敷申上候　先は御返事申上度如此御座候也　頓首

(十)十月十九日

時候折角御自重可被成候　乍筆末皆々様へ

宜敷御申上可被下候様奉頼候

賀来勝太郎様　　賀来飛霞

御返事

(四)

当月四日御手紙同十四日に着難有拝見仕候

梅雨之候益御安泰被成御座珍重之御義に奉存候　次に私無異逗留仕候　乍憚御安意思召可被下候　当方は当月始に大雨に而水なとも沢山に出て其後小雨は毎々降候へとも近日は曇りのミにてふり不申候　私も御同様ひとへものハ二度ほと着用仕候是れも襦袢をかさね申候　貴老者御病後故御重着御尤之御事に御座候　扨而別府も虎例刺起り候由東京新聞紙にも出猶田舎新聞にも出依之大に懼れ申候　御十分に御用心可被成候　此度之御紙上にてハ別府は余程鎮り浜脇日出に流行致候由　右病気に付而ハ県庁も之御規則も有之候に七右衛門夫婦者押し而入湯致候由扨々頑固之事に御座候　湯治場不景気サコソと当方にても国之人々と噂致居候事に御座候　豊岡も御地辺には右病人も無之由何卒此上無之様と日々奉祈候　私宿許も山村流行不仕候由私餘り長逗留故にも可有之帰国之儀ハ一日も忘れ不申候　貴老始メ皆様之事も少しも忘却ハ不仕帰情ハ止ミ不申候　兼て被仰下候通り私も若イと申者にも無御座遠方に出候事実に心細キ事に御座候　其上暢之事一郎平様御周旋に而岩手県へ奉職仕候　去ル八日妻子相携へ出立仕候　私壱人と相成尚以而心細キ事に御座候　一郎平様は先月廿日御出立に而福嶌県開盛山へ御出張相成申候　御同人は御評判も宜敷追々ハ御立身に相成可申と愚考仕候　扨て私壱人に而も迷惑に御座候に付下婢を雇ひ粲次郎と三人に而暮し申候　乍併私給料にてハ粲次郎と親子両人之立行さへ出来兼候処俄に三人に相成如何と日々心配仕候　昨日ハ熊次郎様も御

出に相成可成ハ来月暑引キ6御同伴申帰国可仕と申処に略御相談申置候事に御座候　中々当初之物入故郷に而考候とハ大に相違実に迷惑至極に御座候　暢之も都合宣敷候へは三・四年も逗留之思ひに御座候是ハ八等属と申事に御座候　ドウゾ勤マレバ宣敷キガと存候　私も十分帰国之思ひには御座候只々帰国之都合に込り居申候　江州壽平翁も久々振りに而帰郷之由扨々浦山敷事に御座候　錦衣故郷に帰ルハ実に人間之一大愉快に御座候同人も四十七年ぶりと相覚へ申候　今以逗留に御座候ハは呉々宣敷御伝へ可被下候　貴老も当年ハ御病後にて十年丈程御老衰と之御紙面に候へとも此度御快方に御成之力被爲有候カラハマダ〳〵御養ヒ立テ出来可仕と奉存候　兼而申上候通り百歳マデハ御存命可被成候　生玉子ヲ毎日二ツヅツ飯にマゼ御用可被成候　牛乳宣敷候へとも是は西洋之牛ノ乳にアラサレハ宣敷カラス乍去土地ノ牛にても粥なと喰せ候牛ならハよろしく御座候　扨テ御世話掛リ之道路も余程御出来之由御盛ノ事に奉存候　先は御返事申上度如此御座候

謹言

（十一）六月十五日　　賀来飛霞

賀来惟熊様

侍史

尚々時候御保護専一奉存候　今日も曇り候へとも少々薄日之模様ハ有之昨日同様の事に而午後一二時頃ハ大分晴れ居申候

一　およね様おとふ様おさん様へよろしく〳〵御申上可被下候

一　先日加州様之御屋敷へ皇宮様御幸有之其次之日御飾付拝見に参り加州の姫君ヲモ見カケ申候　御飾付之結構も申に不及書画なと結構なる御品拝見仕候　是等之事ハ帰国拝顔之上万々可申上候也

㈤

六月十八日の御てかみ廿一日相達しありかたく拝し候べく候　時分からあつさに相なり候へともみな〳〵様御そろひ益御あんたい御しのきなされ御目出度そんし上候べく候　次にこゝもといつれもぶし熊次郎様にもいよ〳〵御きけんよく御きんがく今日もゆる〳〵御者なしいたしまし候　御あんしんなさるへく候　御同人様もお小児の時とちがひ当時ハいたって御壮健に御座なされ候　かね〳〵御同道申下りもふすへく

御相談いたしおき候ところ　大坂神戸そのほかせとうち舟路コレラりうこうはけしきよしに付先づ見合せ候ほふよろしかるべしと御相談申おき候　大分県にもしよ〳〵に右病気御座候よし申上候までにも無御座候へどもずいふんとも御やふしんせんいちにぞんじ上まひせ候　しかしすこしハしづまり候との御ふみにてすこしハおちつき申候

一　のぶゆきおちよ岩手けんへまいり誠にさみしき事に御座候　私とふりうの思ひに候へば　のぶゆきを遠方へはつかはし不申候へとも私もしきに下り候おもひにてのぶゆきをてばなし申候

一　三次郎事まひ〳〵御ていねひに御たつね下されありかたくそんし上候べく候　同人も近来はよろしく候て日々にいがくかふへ通ひ申候

一　本月八日には御ふしんも御むなあげなされ候よしさぞ〳〵御事多き候儀とそんし候べく候　おさん様御ふくわいのよし御にんしんにても候や　なにとぞ御とふぶんの事にておよろしかれといのり申候

一　惟熊様にはもはや御全快のよし誠に〳〵御じよふぶにかんしん仕候　御老年ゆへよほと当方6も御気つかひ申上候事に御座候　さすが御てふめいほとあらせられ候　山々よろしく御申上げ下さるへく候　勝太郎様へ別帋さし上もふさず候まゝよろしく御たのみ申上候　先は御返事まてあら〳〵目出度かしく

（十一）六廿九日　　賀来飛霞

賀来おとふ様
まひる

かへす〳〵時候せっかく御いとひなさるべく候　お千代へ御遣しの御処ハ直にさし立申候

一　およね様おさん様へよろしく御伝へあけ下さるへく候

一　浦町へ壱通つかはし申候まゝよろしく御たのミ申上候熊次郎出立ハいつれ来月はじめには東京へかへり候間まづそれまでみやわせ候やふと申参り候　是も熊次郎様へとくと御相談申上候

（六）

十二月廿三日之御状卅日相達難有拝見仕候　寒気之候御渾家御揃益御安泰被成御凌珍重に候儀奉存候　次に私無異逗留

仕候間乍憚御省念可被下候　然ば宿許諸事御世話相成難有奉存候　乍此上宣敷御願申上候

一　市郎平様にも十二月十日御帰京に相成当時御同居にて彼是御世話相成事に御座候　御同人様も福嶌県開拓事許御見込等洋人ダウロンと申人之見込も一轍に出至る御都合宣敷と承り申候　追々御着手にも相成候事と奉存候

一　私植物園云々も長ク奉職出来候訳も無御座少々春暖にも相成候ハハ帰国之心得に御座候　只今にては路費之手当等も無之甚心配中に御座候　宿許当今謝儀寄方如何可有之何分兼而御願置申候次第に付宿許会計連烟堂と篤と御相談可被成下候　○石川大坪両先生会社病院設立之由何れも勢ひ盛なる事に存候

一　熊之助様御事老人様6も縷々被仰下候に付愚考之程存分御返書に相認差上申候　必御掛念無ク御仕送金御差登せ可被成候　今一両年にて予備之学問丈ハ御仕舞に相成本課ニ相成候へは又御都合宣敷事も有之候と承り申候　何れ私帰国之上篤と御話可申上候　冬ノ試験に而二等に御進ミに御座候　点も甲点にて被爲有候よし也　東校にても御評判ハ宣敷と社承り申候

一　お三様御容躰書真足ゟ示し候に付当方にても先生方へ問合申候処　自身診察不致候てハ確と診断出来難シと被申候或ハ真症にてハ無キ欤なりとも被申候　是者先達真足へ向ケ御返事差出置申候　一郎平様へも委細申上置候事に御座候何れ御同人様ゟも御指揮可被成と奉存候　御同人様にては速に御決心可然様被仰候

一　春塘も近日帰国に御座候　私も同伴仕度山々思候へども只今と申候ては其運ひに相成兼申候　御憐察可被下候　春塘粲次郎ゟも宣敷申上候　先者御返事草々如此御座候　頓首

（十二）一月三日　　賀来飛霞拝

賀来勝太郎作

几下

尚々時候折角御自重可被成候、此度ハ御母堂様へ別紙差上不申候、呉々宣敷御申上可被下候也